

4 地域の将来ビジョン

推進会議などでありたい姿について検討を行い、以下の地域の将来ビジョン(目標)を掲げました。

川口中学校区の将来ビジョン

住みたくなる、住み続けられるまち川口

～自然と共生し、大人から子どもまでのつながりを大切に～

◇将来ビジョンに込めた思い

「地域のあらゆる世代」、「地域の住みやすさ」、「自然の豊かさ」の3つのキーワードをもとに、地域に住む子どもから大人までの人々が、つながりや結びつきを大切にしていきたいという思いから将来ビジョンを決定しました。

魅力と課題

【魅力】

(ア) 地域環境に関すること

- ・ 上川町、川口町、美山町、犬目町は地域の居住環境が違う。
- ・ 川口町は戸建てが増え、新住民が増加している。
- ・ 上川町は地域内での結束力が強い印象がある。
- ・ 美山町は戸沢峠を越えた地域で、美山町独自の文化がある。

(イ) 地域活動に関すること

- ・ 住民活動が盛んである。
- ・ NPO 法人やボランティア団体の活動が多い。

(ウ) 自然・四季に関すること

- ・ 動植物、山や川など豊かな自然に親しむことができる。
- ・ 四季の変化を感じることができる。

(エ) 良好な暮らしに関すること

- ・ 静かでのびのび暮らすことができる。
- ・ 地域住民の交流があり、地域の人に見守られながら生活できる。

【課題】

(ア) 公共交通手段の不足

- ・ 川口小学校以西はバスの本数が少なく、車などの移動手段がないと不便である。
- ・ 道幅が狭く、交通量が多いため渋滞する。

(イ) 交流機会・居場所の不足

- ・ 昔からこの地に住む住民と新しい住民同士がつながる機会が少ない。
- ・ 日常生活のなかで、多様な世代が集まる場所、子育て世代や新住民との交流の場がない。

(ウ) 地域活動の担い手の不足

- ・ 60～80代が地域活動の中心であり、若い世代の地域づくりへの参加が少ない。
- ・ 各地域団体における担い手が不足している。

(エ) 身近な活動拠点の整備

- ・ 地域団体などが活動するにあたり、身近に集まれる地域拠点が少ない。

(オ) 情報発信・共有の不足

- ・ 地域情報が一括で入手できるような機能、しくみがない。
- ・ 地域の活動団体同士がお互いの活動内容を知らない。

(カ) 防災・安全

- ・ 空き家が多い。
- ・ 身近に避難所が少ない。

※ **魅力**と**課題**は、川口中学校区(川口地区)住民アンケートの結果や推進会議での主な検討内容を項目ごとに整理したものです。

地域づくりを進めるうえでは、今ある**魅力**を活かしながら**課題**を解決していく必要があります。これらを踏まえ、住民主体で無理なく楽しく進めていける活動について検討しました。

5 アクションプラン

地域の将来ビジョンの実現に向けて、地域主体、また地域と行政が協働しながら課題解決に取り組んでいくためのアクションプランを定めました。

アクションプランは、令和4年度(2022年度)から、地域主体で取り組んでいくものを優先的アクションプランとして取組概要などを決定しています。

そのほかのアクションプランについては、今後取り組んでいく候補として、令和4年度(2022年度)に具体的な検討を進めていきます。

(1) アクションプラン一覧

【優先的アクションプラン】

- プラットフォームづくり
～地域の情報や担い手が集まる場づくり～ ⇨課題(イ)、課題(オ)
- ① コミュニティカレンダーづくり
- ② マルシェの開催

◇ 優先的アクションプランの実施理由

季節のイベントや防犯パトロールなどの活動が盛んなこの地域は、団体活動が重複し、マンパワーが分散している傾向にあります。そこで、地域情報を集約した「コミュニティカレンダー」の作成や、多世代の方が顔を合わせるきっかけとなる「マルシェ」を開催し、活動の効率化と広がりを生み出していきます。

【アクションプラン】

- 活動拠点の整備 ⇨課題(イ)、(エ)
 - ・ 地域資源(観光・自然・野菜など)を発信する場所の整備
- 地域情報の発信力の強化 ⇨課題(オ)、(カ)
 - ・ 地域での幅広い情報共有、SNS を活用するための環境整備
 - ・ 空き家、遊休農地を再利用しやすい環境づくり
- 地域コミュニティの活性化 ⇨課題(イ)、(カ)
 - ・ 地域での見守り隊を結成
- 行政との連携強化 ⇨課題(エ)、(オ)
 - ・ 担当所管との定期的な意見交換(双方向の情報共有の強化)
 - ・ 計画を実施するための組織づくり
- 交通利便性の向上 ⇨課題(ア)
 - ・ 交通(バス、タクシーなど)の利便性の向上
 - ・ 病院や学校、買い物への移動をサポート(コミュニティバスなど)
- 地域の担い手の育成 ⇨課題(ウ)
 - ・ 地域人材が将来的に戻ってきたくなるための地域の魅力向上
 - ・ 計画を実現するリーダーや地域情報のインフルエンサーの育成

(2) 優先的アクションプラン【プラットフォームづくり】

① コミュニティカレンダーづくり



取組概要/進め方	
<p>【取組概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域内の各団体や組織が横のつながりを持ちながら情報を共有し、地域がより活性化することを目指してコミュニティカレンダーをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域団体がお互いの活動を知ること、活動の連携による活性化につなげる ・ カレンダーを通して地域をより知ることができる内容とする(季節ごとに発行する) ・ 親世代が取り組みに参加することを期待し、まずは子どもをターゲットにする <p>【進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発信媒体の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰も見られる媒体→紙面や HP など。受け手の手間を減らすことを念頭に検討する ● 情報の洗い出し、各団体の関係構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業、ボランティアを含めた人材など様々な地域資源を把握する ・ 団体ごとの活動情報を収集・整理し、地域全体で情報を共有する 	
ターゲット/対象	担い手/協力者
<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが楽しめる情報を掲載することで、大人にも広げることができる ● 世代別、カテゴリー別などのターゲットも検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれは、町会に入っていない人を含め、地域全体に届ける。 	<p>【担い手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 推進委員 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各カテゴリーに精通した者で推進委員を作る ・ 運営メンバーの構成を偏らないようにする ・ コミュニティカレンダーに限定した活動組織 ・ 住民協議会など既存組織の活用も検討する ・ 新しい担い手を入れていく <p>【協力者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有償ボランティア/子育て世代/福祉作業所/社会福祉協議会/印刷会社
実施内容	どこで/いつ/頻度
<ul style="list-style-type: none"> ● 行事の案内 <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の行事(ハロウィン、クリスマス) ・ 町会の行事 ● 地域の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ 休耕農地活用/防災情報 	<ul style="list-style-type: none"> ● どこで <ul style="list-style-type: none"> ・ 打ち合わせは川口小学校、上川口小学校、川口事務所、川口市民センターなどで行う ● いつ/頻度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節ごとに発行 ・ 月に1回の定例、必要に応じて臨時で打ち合わせ ・ 継続して実施することを目指す
開始時期/スケジュール	必要な物資・資材など
<ul style="list-style-type: none"> ● 開始時期…4月 ● スケジュール <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 推進委員の立ち上げ(運営メンバー決定) ・ 5・6月 地区や市への協力要請(広報等で情報の洗い出し、情報収集) ・ 7月 紙面作成開始 ・ 秋頃 紙面完成予定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発信媒体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙 ・ 電子媒体、SNS ● 費用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷等にかかる資金 ● 活動拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の小中学校、川口事務所など

②マルシェの開催



取組概要/進め方

【取組概要】

- 地域の活性化のため、地域内で顔の見える関係づくりを行うことを目的にマルシェを実施する
 - ・ 有志のみでの運営には限界があるため、住民協議会などの既存団体と連携する
 - ・ マルシェをきっかけに人が集まるプラットフォームとして団体の共通課題である人手不足を解消する

【進め方】

- 既存のマルシェへの視察・ヒアリング
 - ・ 恩方マルシェなど、既存事例から情報収集を行う
- 住民協議会のイベントの場を活用し、第1回を実施
 - ・ 既存イベントの枠組みの一部で実施し、まずはコンパクトに始める
 - ・ 地域で収穫した野菜販売や、地域人材によるイベントなど、地域内のリソースで実施する

ターゲット/対象	担い手/協力者
<ul style="list-style-type: none"> ● まずは、川口中学校区を対象 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しく地域に入ってきた人 ・ 子どもや高齢者 	<ul style="list-style-type: none"> ● 担い手 <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民協議会と連携して実施する ・ 第1回は地域の有志によるボランティア ・ ゆくゆくは有償の業務として行うことを想定 ● 協力者 <ul style="list-style-type: none"> ・ ほかのマルシェの運営者(恩方マルシェ、もとはちマルシェ) ・ 農家…農産物販売 ・ 中学生など若い世代…情報発信や、部活の発表 ・ 地域の企業や大学との連携を探る
実施内容	どこで/いつ/頻度
<ul style="list-style-type: none"> ● メインはマルシェ <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域でとれた野菜の販売 ・ 規格外野菜で売れないもの、収穫期に消費しきれないものなどを販売する ● イベントも実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の部活の発表 ・ 今熊太鼓の発表 ・ 竹とんぼ教室など 	<ul style="list-style-type: none"> ● どこで <ul style="list-style-type: none"> ・ 川口やまゆり館 交通の便が良く、駐車場や広場があるため ・ 地域内の公園などでの実施を検討する ● いつ <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回を令和4年(2022年)11月に開催 ・ 準備期間、他の行事日程を考慮して決定 ● 頻度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 頻度は未定だが、コンスタントに実施する
開始時期/スケジュール	必要な物資・資材など
<ul style="list-style-type: none"> ● 実施時期は住民協議会のおまつりに合わせる <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月 ● 実施までのスケジュール <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 住民協議会の会合で承認を得る 実行委員会の立ち上げ ・ 11月 川口やまゆり館まつりで開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資金 <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民協議会の予算 ● 機材、設備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看板 ・ テント ● 交通手段 <ul style="list-style-type: none"> ・ 無料シャトルバス

スケジュール

		令和4年度 (2022年度)												令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)		令和7年度 (2025年度)		令和8年度 (2026年度)		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	準備開始:運営メンバーの決定	●																				
	住民協議会の会合で承認 実行委員会の立ち上げ		●																			
	マルシェ視察		●																			
	第1回開催概要決定			●																		
	第1回マルシェの出品者募集・決定 第1回イベントの出展者募集・決定				●																	
	広報							●														
	第1回マルシェ開催								★													
	協賛企業、連携する大学等を探す																					
	準備																					
	第2回開催、内容の充実を図る																					
	準備																					
	第3回以降開催、場所や回数 の拡充を図りながら、定着・拡大 を目指す																					
	運営メンバーで次回以降の検討、定期的な打ち合わせ																					

6 令和4年度(2022年度)地域づくり推進体制

地域づくりを進めていくうえで重要な役割を担う推進会議は、多世代・多分野にわたる地域の活動団体や住民が参画し、自分たちでやりたいことを実現していく『地域のプラットフォーム』となることを目指していきます。

令和4年度(2022年度)地域づくり推進体制は、以下のとおりです。地域の活動団体や住民が横のつながりを持ち、協力し合いながら取り組んでいきます。

令和5年度(2023年度)以降の体制は、アクションプランとともに検討し、決定していきます。

【令和4年度(2022年度)地域づくり推進体制】

